

| 番号 | 氏名 | 抱負 |
|-----|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 141 | 須崎 勝正 | 初めて平成27・28年度代議員を務めた。この時は副技師長として参加であり、何をすべきかわからない状況であった。昨年度より技師長となり責任とともに活動範囲が広がった。また、東北支部の理事として参加させてもらい、日本放射線技術学会の内容も分かるようになってきた。これから日本放射線技術学会の国際化に向けて若い人のサポートをして活動に貢献していければと思う。 |
| 142 | 鈴木 和弘 | 医療技術や医療機器の進歩により、われわれ放射線技師の業務には、より高度な技術と専門的な知識が求められています。その中で放射線技術学を専門とする本学会は非常に重要な役割を担っており、今後更なる発展が期待されます。私は放射線技師として経験も浅く未熟ではありますが、同世代の若い会員にも学会の取り組みや活動内容を広め、より多くの意見を学会に反映させ、更なる学術の発展及び人材育成に貢献したいと考えております。 |
| 143 | 鈴木 信昭 | 入会以来、学術大会への参加、学会発表、論文投稿、スタンフォード大学への研修参加など、学会にはたいへんお世話になってきました。この度、代議員という立場で学会活動に関わることによって、学会に少しでも恩返しができればと思い、立候補いたしました。北海道の学会員の代表として、今後の技術学会の発展のために微力ですが何かお手伝いしたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。 |
| 144 | 須藤 高行 | 平成25年度から、関東支部理事を務めております。放射線技術学会は多様化する社会の要請に応え、放射線技術学の進歩発展を見据えた事業展開を目指しています。今までの理事としての経験を生かし学会の更なる発展に寄与すべく尽力する所存であります。何卒宜しくお願い申し上げます。 |
| 145 | 隅田 博臣 | 広島大学は原爆投下以来、大学一体となり被ばく医療に取り組んでいる。私も放射線技師として様々な取り組みに参加し人材育成の仕組みも構築・展開している。特に福島原発事故以降広島大学緊急被ばく医療推進センターと連携し保健物理からリスクコミュニケーションの領域で様々な事業を展開している。私はその情報を日本放射線技術学会に発信できればと考えている。 |
| 146 | 諏訪 和明 | 現在、関東支部理事、関東支部関東DR研究会幹事として会務に協力させて頂いております。会務を務めさせて頂いている中で、学会本部、部会、支部、研究会の結びつきの重要性や各学会員に対する学会の必要性を常に実感しております。今後も学会本部、部会等と協力し、多くの事業を行ってゆき、代議員として更なる技術学会の発展、部会や支部の活性化、会員の放射線技術の向上のために寄与してゆきたい所存であります。 |
| 147 | 関 将志 | この度代議員に初めて立候補させて頂きました。北里大学病院の関将志です。近年、国民の放射線への関心が高まり、安心で安全な放射線医療が求められています。放射線の知識がある我々が、どう国民の信頼を得られるのか、今後も考えていく必要があると思います。私自身、まだまだ未熟な身ではございますが、放射線技術の発展の為、当学会の発展に尽力したいと考えております。宜しくお願い致します。 |
| 148 | 高内 孔明 | 日本放射線技術学会が有する情報資源を会員の皆様が、より便利に活用できるように、IT活用の改良を進めていきたいと考えています。イベントカレンダーとGoogle等のカレンダー連携や、サイボスのMac(iPhone系)対応、学会誌の電子アプリなど、IT活用を提案していきたいと考えております。 |
| 149 | 高島 弘幸 | 本部での決定事項などをしっかりと地方支部に伝達し、さらに、積極的な学術活動を行うことで、本学会の発展に寄与することを目的とする。 |
| 150 | 高嶋 優子 | 本学会では東京部会の乳房撮影技術研究委員、胃がん検診精度管理機構では指導員として、精度の高い検診の普及に務めております。今後は、精度は高く保ったまま、受診者に優しいマンモグラフィ撮影への取組や、安全かつ受診者の満足度の高い胃がん検診の技術指導の啓蒙に携わり、さらなる発展に貢献していきたいと思っております。子育てしながらの学会活動は様々な悩みもありますが、その経験を活かして後輩育成にも力を入れていきます。 |